2　適応セットアップ制御

垂直補強信号は、重畳される前に、次に示す回路を基本とする処理により、セットアップが制御されているものとする。




注1　BPFは、次の帯域通過特性を持つ回路とする。

0MHzにおいて、40dB以上の減衰

1MHzにおいて、15dB以上の減衰

3.08MHzにおいて、2dB未満の減衰

4.08MHzにおいて、2dB未満の減衰

2　LPFは、次の低域通過特性を持つ回路とする。

0.6MHzにおいて、6dB未満の減衰

1MHzにおいて、2dB以上の減衰

3.08MHzにおいて、20dB以上の減衰

3.58MHzにおいて、40dB以上の減衰

3　ABSは信号の絶対値をとる回路を表す。

4　N. L.は次の特性をもつ非線形回路とする。ただし、次に示す図において、入力及び出力の値は、ペデスタルレベルを0、映像信号の白レベルを＋100としたときの値とする。




5　Dは、BPFからLPFまでの処理にかかる時間に対応する遅延回路を表すものとする。

**○総務省告示第二百九十四号**

標準テレビジョン放送（デジタル放送を除く。）に関する送信の標準方式（平成二十三年総務省令第八十八号。以下「標準テレビジョン放送の標準方式」という。）第十八条第四項、第十九条第五項及び第二十条第三項並びに標準テレビジョン音声多重放送に関する送信の標準方式（平成二十三年総務省令第九十一号）第十二条第一項（標準テレビジョン放送の標準方式第二十三条第二項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、フレーム行列の構成及び制御手順、音声信号の送出手順並びにデータパケットの送出手順を次のように定め、平成二十三年六月三十日から施行する。

なお、平成十一年郵政省告示第百十九号（フレーム行列の構成及び制御手順、音声信号の送出手順並びにデータパケットの送出手順を定める件）は、平成二十三年六月二十九日限り廃止する。

平成二十三年六月二十九日

総務大臣　片山　善博

一　フレーム行列の構成

1　フレーム行列の第一行から第十六行までは、フレーム同期符号の送出のために使用するものとし、フレーム行列の値は、フレーム行列からの読み出し順に「〇〇〇一〇〇一一〇一〇一一一〇」とする。

2　フレーム行列の第一列の第十七行から第三十二行まで並びに第二列の第八行、第十六行、第二十四行及び第三十二行は、制御符号（受信の補助のために送出する符号をいう。以下同じ。）の送出のために使用するものとする。

3　フレーム行列の各行の第二列から第五十七列まで（第二列の第八行、第十六行、第二十四行及び第三十二行を除く。）は、音声信号及びデータの送出のために使用するものとする。

4　フレーム行列の各行の第五十八列から第六十四列までは、それぞれの行の第二列から第五十七列までの符号に対する冗長ビット（符号の誤り訂正及び誤り検出のための情報を表す一連のビットをいう。以下同じ。）の送出のために使用するものとし、別図第一号の回路によって生成するものとする。

二　音声信号の送出手順

1　ステレオホニック放送

㈠　第二音声チャネルによるステレオホニック放送を行う場合にあっては、左側信号を第一音声チャネル及び右側信号を第二音声チャネルで送出するものとする。

㈡　第四音声チャネルによるステレオホニック放送を行う場合にあっては、左側信号を第三音声チャネル及び右側信号を第四音声チャネルで送出するものとする。

2　音声信号の符号化

㈠　標本化の時刻

ステレオホニック放送を行う場合における左側信号及び右側信号の標本化の時刻は、同一時刻とする。

㈡　音声信号の量子化

ア　音声信号の標本値は、標本化周波数を三二kHzとするときにあっては一四桁、四八kHzとするときにあっては十六桁の二進数字によって表示される等間隔の音声レベル（以下「音声信号レベル」という。）に量子化するものとする。

イ　音声量子化レベルは、その二進数字の最上位の桁が「〇」でその他の全ての桁が「一」のとき正の最大値、全ての桁が「〇」のとき〇及び最上位の桁が「一」でその他の全ての桁が「〇」のとき負の最大値とする。

ウ　音声量子化レベルは、次の式で求められる範囲にあるものとする。

$-2^{(P-R-1)} \leqq Q \leqq 2^{(P-R-1)}-1$

Pは音声量子化レベルを表す二進数字の桁数、Rは0から4までの整数（以下「レンジ番号」という。）、Qは音声量子化レベルを表すものとする。

㈢　音声標本語

ア　音声標本語は、標本化周波数を三二kHzとする場合にあっては音声量子化レベルを表す二進数字のうち最上位から二番目の桁からレンジ番号に相当する連続する桁を除いた二進数字、標本化周波数を四八kHzとする場合にあっては音声量子化レベルを表す二進数字とする。

イ　音声標本語のフレーム行列への書き込みは、最上位の桁から行うものとし、フレーム行列へ書き込む一の音声標本語のビット数は、当該音声標本語の送出のために一の行上で連続して割り当てられるフレーム行列のビット数とする。